

平成２８年度
岡山県高次脳機能障害及び
その関連障害に対する支援普及事業
実施報告書

岡山県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

岡山県高次脳機能障害及び
その関連障害に対する支援普及事業

平成 28 年度実施報告書目次

1	高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業	3
2	高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会	4
3	平成 28 年度高次脳機能障害地域支援ネットワーク中国ブロック協議会	6
4	拠点機関における支援	
(1)	川崎医科大学附属病院	7
(2)	ひらた旭川荘	9
5	ワーキンググループ活動	
(1)	医療ワーキンググループ	11
(2)	地域連携ワーキンググループ	12
(3)	福祉ワーキンググループ	15
(4)	小児ワーキンググループ	15
(5)	精神科ワーキンググループ	16
(6)	自動車運転ワーキンググループ	16
6	関係機関における支援	17
	岡山障害者職業センター、倉敷リハビリテーション病院、しげい病院 さとう記念病院、渡辺病院、瀬戸内市民病院、コープリハビリテーション病院、 おかやま脳外傷友の会モモ、工房かたつむり、草木舎、まにわシードの会、 つるの会	
7	平成 29 年度岡山県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業計画	28

1 高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業

(1) 岡山県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業実施要綱

第1 目的

岡山県に高次脳機能障害及びその関連障害（以下、「高次脳機能障害等」という）を有する者への支援拠点機関を置き、高次脳機能障害等を有する者に対する専門的な支援を行うとともに、支援拠点機関を中心とした関係機関との地域支援ネットワークの充実を図り、高次脳機能障害等を有する者に対して適切な支援が提供される体制を整備する。

また、高次脳機能障害等の支援に携わる者及び自治体職員に対して高次脳機能障害支援モデル事業で得られたプログラム等を用いて研修を行い、適切な支援の普及を図る。

第2 実施主体等

本事業の実施主体は岡山県とする。県は、高次脳機能障害等を有する者の支援の拠点となる機関（以下「支援拠点機関」という。）を指定するものとする。

ただし、事業の一部又は全部を支援拠点機関に委託して実施することができる。

第3 対象者

対象者は、高次脳機能障害診断基準により高次脳機能障害を有すると認定された者及びその関連障害（失語症等）を有する者とする。

第4 支援拠点機関

- (1) 支援拠点機関には、高次脳機能障害等の相談支援の経験を有する者（相談支援コーディネーター）を1名以上配置し、必要に応じて作業療法士、理学療法士、心理職等の専門的な支援を受けられる体制を有するものとする。
- (2) 支援拠点機関は、専門的なアセスメントによるケアプランの作成及び評価、関係する医療機関、福祉施設、家庭等との連絡・調整、医療機関とのケア会議の開催並びに医療及び福祉サービスの提供等の支援を行う体制を有するものとする。

第5 事業の内容

(1) 相談支援体制整備

支援拠点機関に専門的な相談支援にあたる者を置き、高次脳機能障害等を有する者に対する個別の相談支援、医療、福祉サービスの提供、関係機関（医療機関、障害福祉施設、更生援護施設等）に対する助言、指導を行う。

また、支援拠点機関は、支援拠点機関、自治体職員、学識経験者に当事者団体等を加えた相談支援体制連携調整委員会を設置し、地域の実態把握、関係機関の連携確保、事業の実施状況の分析、効果的な支援方法、普及啓発活動等について総合的な検討を行い、地域ネットワークの充実を図る。

(2) 高次脳機能障害等支援研修

高次脳機能障害等に関する支援に携わる者及び相談支援を担当する自治体職員に対し、高次脳機能障害支援モデル事業を通して得られた診断基準、訓練プログラム、支援プログラム等を用いて高次脳機能障害等を有する者に対する支援手法の研修を実施し、高次脳機

能障害等を有する者が日常的に利用するサービスの提供者及び自治体において適切な相談支援が行われるように図る。

第6 秘密の保持

本事業に携わる者（当該事業から離れた者を含む。）は、事業により知り得た対象者等の秘密を漏らしてはならない。

第7 その他

この要綱に定めるもののほか、この事業の実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

なお、この要綱の制定により、岡山県高次脳機能障害支援推進モデル事業実施要綱は廃止する。

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

2 高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

1) 名簿

所 属	役職名	氏 名
川崎医科大学附属病院 リハビリテーション科	副部長	平岡 崇
川崎医療福祉大学 感覚矯正学科	教授	種村 純
川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター	言語聴覚士	八木 真美
ひらた旭川荘 高次脳機能障害支援室	室長	後藤 祐之
岡山県保健福祉部健康推進課	課長	兼信 定夫
岡山県精神保健福祉センター	所長	野口 正行
岡山障害者職業センター	主任障害者職業カウンセラー	井上 満佐美
おかやま脳外傷友の会・モモ	会長	滝川 敬三

拠点機関

川崎医科大学附属病院	院長	園尾 博司
川崎医科大学附属病院 リハビリテーション科	部長	椿原 彰夫
川崎医科大学附属病院 小児科	医長	赤池 洋人
川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター	療法士長	大塚 啓司
川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター	主任言語聴覚士	宮崎 彰子
川崎医科大学附属病院 リハビリテーションセンター	作業療法士	用稲 丈人
川崎医療福祉大学 臨床心理学科	臨床心理士	水子 学
川崎医療福祉大学 医療福祉学科	社会福祉士	竹中 麻由美

川崎医科大学附属病院 病院事務部	事務部長	難波 徹
川崎医科大学附属病院 病院庶務課	課長	山本 善子
川崎医科大学附属病院 病院庶務課	事務職員	斉藤 香織

岡山県

岡山県保健福祉部健康推進課	総括参事	松井 哲雄
岡山県保健福祉部健康推進課	総括副参事	森川 美幸
岡山県教育庁特別支援教育課	総括副参事	金島 久美子

協力病院（50 音順）

井原市民病院 リハビリテーション科	作業療法士	高槻 聖子
岡山旭東病院	作業療法士	平松 孝文
岡山旭東病院	作業療法士	山本 昌和
岡山旭東病院	臨床心理士	廣野 華奈子
岡山リハビリテーション病院	リハビリテーション科部長	森田 能子
岡山リハビリテーション病院	作業療法士	奈良 茜
落合病院(まにわシードの会事務局)	作業療法士	飯嶋 信博
金田病院	作業療法士	竹田 和也
川崎医科大学総合医療センター リハビリテーション科	副部長	目谷 浩通
倉敷リハビリテーション病院	作業療法士	尾藤 真奈美
コープリハビリテーション病院	医療相談連携室長・医療ソーシャルワーカー	田辺 紀子
さとう記念病院	作業療法士	濱田 貴史
しげい病院 リハビリテーション部	作業療法士	西濱 美絵
瀬戸内市民病院 医局	医師	浅海 昇
瀬戸内市民病院 リハビリテーション科	言語聴覚士	安藤 佐知子
瀬戸内市民病院 リハビリテーション科	言語聴覚士	安東 沙記
高梁中央病院	言語聴覚士	守屋 潤
津山第一病院	言語聴覚士	松島 大介
津山第一病院	作業療法士	山下 将輝
津山中央病院	作業療法士	太田 有美
渡辺病院	作業療法士	高田 梨絵

2) 平成28年度委員会プログラム

・第1回高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

平成28年8月10日(月)15:00～17:00

川崎医科大学附属病院 西館棟16階大会議室

1. 地方支援拠点機関等全国連絡協議会および支援コーディネーター会議の報告
2. 拠点機関からの報告
 - ①川崎医科大学附属病院 ②ひらた旭川荘
3. 各ワーキンググループの報告
 - ①医療ワーキンググループ ②福祉ワーキンググループ ③精神科ワーキンググループ
 - ④地域連携ワーキンググループ ⑤小児ワーキンググループ
 - ⑥自動車運転ワーキンググループ
4. 関係機関からの報告
5. 家族会からの報告
6. その他

・第2回高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

平成29年3月15日(月)15:00～17:00 川崎医科大学附属病院 西館棟16階大会議室

1. 地方支援拠点機関等全国連絡協議会および支援コーディネーター会議の報告
2. 中国ブロック会議の報告
3. 拠点機関からの報告
 - ①川崎医科大学附属病院 ②ひらた旭川荘
4. 各ワーキンググループの報告
 - ①医療ワーキンググループ ②福祉ワーキンググループ ③精神科ワーキンググループ
 - ④地域連携ワーキンググループ ⑤小児ワーキンググループ
 - ⑥自動車運転ワーキンググループ
5. 関係機関からの報告
6. 家族会からの報告
7. 平成29年度の支援事業に関して(事業計画)
8. その他

3 平成25年度高次脳機能障害地域支援ネットワーク中国ブロック協議会

① 中国ブロック連絡協議会

日時: 平成29年3月4日(土)16:15～17:30

場所: 広島市東区地域福祉センター 大会議室

議事次第

1. 開会

2. 平成28年度第2回全国連絡協議会および全国支援コーディネーター会議の報告

3. 議題

(1) 各県事業報告および課題について

① 広島県 ② 岡山県 ③ 島根県 ④ 山口県 ⑤ 鳥取県

(2) 次年度以降の事業展開について

・次年度担当県

(3) その他（情報提供・報告事項）

4. 閉会

4 拠点機関における支援

(1) 川崎医科大学附属病院

1 川崎医科大学附属病院

1) 高次脳外来（金曜・午後/予約制）

受診者

新規受診者：36名

概要

性別：男性24 女性12

年齢：10代以下1 10代1 20代4 30代8 40代6 50代10 60代2 70代以上4

原因疾患：外傷性脳損傷20 脳出血6 脳梗塞6 脳腫瘍1 その他3

主訴

診断、リハビリ、手帳・年金申請、後遺症診断、就労相談、復学相談、今後の方針など

前年度からの継続者：112名

支援内容

・診断、リハビリテーション

・他機関との連携支援

障害者職業センター、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所、地域生活支援センター、障がい者就業・生活支援センター、地域活動支援センター、診療所等との連携

・一般就労、復職支援

・心療科、精神科医療機関と連携して支援

・弁護士との面談

・自動車運転の評価

・家族への助言、情報提供

2) 当事者グループ訓練

参加者：33名（5グループ）

頻度：各グループ 1回/週 60分

訓練内容

- ・最近の出来事発表
- ・認知課題
- ・クラフト作成
- ・日常生活の振り返り、目標設定

前年度からの動向

新規：2名 終了：4名（就労3 通院困難1）

訓練の状況

- ・設定した目標に向けてどうだったのか、生活の様子を振り返る。
- ・代償手段の利用を促進。手帳、携帯等で日々の出来事や予定を管理する機会を増やす。
- ・不適切な発言を抑え、頑張ったこと、良かったことが報告できるようにする。
- ・他者へ働きかけることや、他者を思いやる場面、状況で判断して行動する場面等の増加
- ・グループ訓練をステップとして、地域の通所施設への参加、復職など社会復帰を目指す。

3) 家族支援グループワーク報告

I 実施のねらい

高次脳機能障害者を支える家族同士が、当事者の様子や家族自身の悩みを語り合い、情報や気持ちの共有を通して、問題解決の糸口を見出す一助となるよう支援することを目的とした。

II 実施概要

スタッフ 4名（ST, MSW, CP）

実施日時 月曜グループ、水曜グループ、金曜グループの3グループを構成し、毎週1回（1時間程度）の頻度で実施。

実施期間 平成28年4月～現在に至る。

実施状況 参加定員数の制限を設けず、新規参加者を随時追加しながら曜日ごとにグループを構成。毎回、スタッフが設定したプログラムに沿って家族同士が意見や気持ちを話し合うミーティング形式で実施（表1）。

表1 家族支援グループワークの実施実績

グループ	実施回数	延べ参加者数	1回あたりの平均参加者数	主な実施内容
月曜	37	173	4.7	前回からの振り返り、参加者同士の情報交換及び悩みごとの共有。
水曜	36	115	3.2	薬物：減量・中止に伴って生じた行動問題への対処 精神神経症状の理解・対応：口唇傾向、けいれん発作等 行動管理：自発性低下（家事の手伝いなど）、自己中心性、固執、怒り、食事制限、喫煙、携帯電話を利用した外出の遠隔管理、声かけの仕方、不適切な癖（びんぼう揺すり）、入浴時間の延長 当事者・家族のストレス解消法
金曜	21	47	2.2	前回からの本人の様子を確認、家族の生活の変化などを自由に話す。
合計	94	335		

III 実施成果と今後の課題

- 前回からの振り返りを通じて、日頃、気になっている悩みや不安について、具体的に語り合うことができている。他の参加者から、自身の経験を踏まえた解決案が提案されることも多く、問題解決のきっかけを掴むことにつながっている。具体的な解決案が見当たらない場合、その問題を抱えている参加者の気持ちに寄り添い、共感的に理解しようとする様子が見受けられた。
- 受傷から長期に経過したケースの場合、多くの家族介護者は、生活場面で当事者が現在出来ていることを可能な限り維持して欲しいと願っている。しかし、日常生活の中で、どのような取り組みを行えば、残存機能の維持につながるのか見当がつかず、憂慮されている。活用できるサービスや暮らしの中で導入できるリハビリ等の情報について、当事者および家族介護者の現況を踏まえたうえで提供することが重要である。
- 当事者の変化を見守り、時期に応じて適切な対応を検討し、家族の不安に対応する。
- 一人で参加するメンバーやヘルパー同伴で参加するメンバーに加え、それぞれの家族や受診の都合で毎週参加しないメンバーが多い。そのため 1 回の参加人数は少ないが、その分、家族間に凝集力が生じ、女性同士の心やすさも影響しているのか、お互いの生活を思いやるような発言も多い。スタッフは導入時に「いかがでしたか？」と話を振るが、その後は家族同士のやりとりを見守っている。
- 具体的な困りごと（吸入剤をうまく服薬できない、体重が増加する、すぐに忘れる）などに関する発言があれば、スタッフが取り上げ皆で解決方法を考える。参加者がそれまでの経験から助言し、ST やソーシャルワーカーが参加している場合には専門職として助言も伝える。
- 障害年金の申請、障害者総合支援法、介護保険等の社会資源の利用手順も、参加者の経験から助言し合うと共に、スタッフが必要な情報を補足する。
- 「他人にはわかってもらえない」「ここで話していても一人ひとり違う」などの発言があり、高次脳機能障害のある患者が家族である者同士で自由に話し合いながら、障害への理解を深めているようである。

（２） ひらた旭川荘

1) 平成 28 年度の新規相談受付者

新規受付 8 人 再 来 18 人

2) のべ相談件数

通所利用者 91 件、外来相談 46 件、機関相談 50 件、ケア会議 6 件、普及・育成 28 件
連絡調整 311 件

3) 特徴的な相談について

・事例 A 【出張評価を行い評価結果を踏まえてケア会議】

就労継続支援 B 型利用中。他県出身。出身県に帰って生活するための段取りについて。

→病院退院以降、認知機能の評価を行っていないので、記憶・注意・遂行機能障害の神経心理学的検査を実施。評価結果を踏まえて検討を実施。一般雇用は難しいであろうことを前

提に検討。

・事例 B【隣県のリハビリテーション病院とも連携】

県北に在住。隣県のリハビリテーション病院にて通院治療中。職場復帰について。

→隣県のリハビリテーション病院に出向いてケア会議を実施。会社に障害をどのように伝えるかなどを検討。

・事例 C【言語聴覚士派遣による専門的評価】

県北の生活介護を利用中。一昨年失語症の評価を行ったケースがその後どのように生活しているかフォローアップと言語聴覚士による評価を実施。

4) 日中活動の実施

・地域活動支援センターの日中活動への高次脳機能障害者（失語症含む）の受入。

5) 失語症者への支援

川崎医科大学の言語聴覚士の協力により、ひらた旭川荘地域活動支援センターで「ことばのクラス」を毎週水曜日に実施。遠方の入所施設を利用している失語症者には言語聴覚士と同行し、アセスメントやことばを使った日中活動の内容について施設に助言。

6) 普及啓発・研修の実施

①平成 28 年度岡山県高次脳機能障害支援研修会

日時：平成 28 年 2 月 1 日 場所：岡山市男女共同参画社会推進センター（さんかく岡山）
参加者：約 40 人

②保健所関係会議及び自立支援協議会部会での普及啓発

高次脳機能障害の特性と支援窓口について 30 分程度のミニ研修会を実施。

平成 28 年 7 月 28 日：倉敷

平成 28 年 9 月 15 日：玉野

平成 28 年 9 月 30 日：新見

③失語症当事者・家族会研修会「こすもすの会」研修会講師

日時：平成 28 年 10 月 8 日 場所：岡山リハビリテーション病院

内容：「失語症者の社会的支援について」

参加者：約 30 人

④介護保険の居宅介護・訪問看護を対象とした研修会

日時：平成 29 年 3 月 8 日 場所：倉敷市休日・夜間診療センター

参加者：約 40 人

⑤旭川荘療育アカデミーでの研修会（本事業予算外）

ア 平成 28 年 9 月 24 日 「高次脳機能障害の特性と社会的支援」

イ 平成 29 年 3 月 4 日 「高次脳機能障害者の日常生活支援」

講師：社会福祉法人豊中きらら会 山河正裕先生

※支援コーディネーターが企画調整を実施。

5 ワーキンググループ活動

1. 医療ワーキンググループ

1 活動目的

症例検討会や勉強会を開催し、評価やリハビリテーションに対する検討を行いながら、高次脳機能障害者の認知リハビリテーション、社会復帰支援を実施する。

2 活動内容

(1) 症例検討会 7回

平成 28 年 5 月 23 日	川崎医大附属病院（横山 ST、鷺田 OT、守山 OT、八木）
平成 28 年 7 月 4 日	倉敷リハビリテーション病院（岡崎 ST）
平成 28 年 8 月 8 日	しげい病院（松本 OT、小見山 ST）
平成 28 年 9 月 26 日	倉敷中央病院（相原 ST）
平成 28 年 10 月 31 日	川崎病院（守屋 ST、祐森 OT）
平成 28 年 12 月 12 日	川崎医大附属病院（光永 OT、後藤 ST）＊小児症例
平成 29 年 1 月 23 日	岡山旭東病院（清水 OT、藤田 ST）

(2) 勉強会 1回

平成 29 年 3 月 6 日

「高次脳機能障害者の職業リハビリテーションについて」

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター 職業訓練部部長 岡谷和典 氏

参加者 33 名

3 参加者のべ 198 名（作業療法士、言語聴覚士、SW、医師）

岡山旭東病院	清水、吉村、藤田、三浦
倉敷中央病院	相原、新谷、河岡、丸山、藤村、野村、新岡、山本
川崎医科大学総合医療センター	逸見、守屋、船田
しげい病院	小林、狩屋、小見山、村下、小林、松本、小川、武内、安東
倉敷リハビリテーション病院	長崎、萩原、湯浅、尾上、岡崎、田口、福長、尾藤、榎本、桑原、濱尾、石口、花田、林、山下、伊藤
倉敷第一病院	坂根
倉敷記念病院	小浜、横関
川崎医療福祉大学	種村、竹中
川崎医療短期大学	檜原
川崎医科大学附属病院	平岡、大塚、前田、用稲、平林、吉村、光永、村上、守山、花岡山田、竹原（修）、神崎、大塚（見）、山崎、小川、木下、竹原（実）林、宮崎、川崎、中上、横山、後藤、小林、小割、山口、糸山、中村、大野、田中、田山、八木（敬称略）

2. 地域連携ワーキンググループ

1 活動内容

(1) 普及啓発活動

①岡山県行政のコーディネートにより県内各地域での自立支援協議会（精神保健関係の部会）や保健師の研修会の場で啓発活動を実施。

- ・平成 28 年 7 月 28 日 備中保健所自立支援協議会 45 名
- ・平成 28 年 9 月 15 日 玉野市障害者総合支援会議精神保健福祉部会 25 名
- ・平成 28 年 9 月 30 日 新見地域医療ネットワーク会議 25 名

②新パンフレット（第 3 版）の配布

(2) 関係機関、家族会等との連携

- ・高次脳外来において地域の各機関とのケア会議参加、カンファレンス開催
- ・県北で高次脳機能障害者対象の日中活動を実施したり、介護保険利用者及び介護保険施設に助言
- ・家族会の各活動や研修会への協力

(3) 講習会・研修会の実施

① 岡山リハビリテーション講習会（日本損害保険協会助成）

日時：平成 28 年 12 月 18 日（日）10：00～14：30

場所：川崎医大附属病院 8 階大講堂

テーマ：「高次脳機能障害者支援のこれから～現状と課題～」

「日本における高次脳機能障害者支援のこれから」

国立障害者リハビリテーションセンター 学院長 中島八十一先生

「海外における高次脳機能障害者支援」

神戸大学大学院保健学研究科 教授 種村 留美先生

高次脳機能障害者を支援する会

特定非営利活動法人「草木舎」/グループホームそうもく 活動報告

参加者 148 名

② 高次脳機能障害研修会

日時：平成29年 1 月12日（火） 13：30～16：00

場所：岡山市男女共同参画社会推進センター（さんかく岡山）会議室

対象：岡山県内において保健福祉または障害福祉関係の行政に携わる職員

岡山県内の医療または福祉サービス関係職員

岡山県高次脳機能障害支援連携調整委員会委員

(1) 高次脳機能障害とは

川崎医療福祉大学副学長 教授 種村 純

(2) 岡山県における支援体制

川崎医科大学付属病院 支援コーディネーター 八木真美（言語聴覚士）

(3) 当事者の立場から見た高次脳機能障害

おかやま脳外傷友の会モモ 会長 滝川敬三

(4) 高次脳機能障害者の社会的支援

社会福祉法人旭川荘 支援コーディネーター 後藤祐之（精神保健福祉士）

③医療 WG 勉強会

日時：平成 29 年 3 月 6 日（月）17：15～18：30

場所：川崎医大附属病院リハビリテーションセンターカンファレンス室

参加者：33 名

「高次脳機能障害者の職業リハビリテーションについて」

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター 職業訓練部部长 岡谷和典氏

④旭川荘療育アカデミー

・平成 28 年 9 月 24 日 「高次脳機能障害の特性と社会的支援」 後藤祐之

参加者：福祉施設職員、保育園職員、学校教員 22 人

・平成 29 年 3 月 4 日 「高次脳機能障害者の日常生活を支援するために」

工房「羅針盤」施設長 山河正裕

医療、福祉関係職員、当事者、家族

⑤協力した講習会/研修会

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
28.5.14	第 17 回倉敷脳卒中チームケア研究会 (K-CAST)	医療福祉介護関係者	「岡山県高次脳機能障害支援拠点病院における自動車運転支援について」用稲丈人
28.6.30	吉備職業リハビリテーションセンター	就労関係者 10 名	「就労支援に際しての説明および個別相談」平岡 崇
28.7.2	環瀬戸内ネットワーク会議	各県医療福祉支援者 15 名	「岡山県における子どもの高次脳機能障害支援について」八木真美
28.7.16	日本高次脳機能障害学会夏季教育研修講座	医療関係者 500 名	「失語症候とその対応・聴覚的理解障害とその対応」種村 純
28.7.22	摂食嚥下認定看護師教育過程講義	看護師 40 名	「高次脳機能障害の概要ならびに高次脳機能障害者の嚥下障害」平岡 崇
28.7.28	備中保健所自立支援協議会	医療福祉関係者 45 名	「高次脳機能障害の症状と支援について」後藤祐之、八木真美
28.9.5	吉備職業リハビリテーションセンター	就労関係者 10 名	「就労支援に際しての説明および個別相談」平岡 崇

28. 9. 15	玉野市障害者総合支援会議精神保健福祉部会	医療福祉関係者 20 名	「高次脳機能障害の症状と支援について」 後藤祐之、八木真美
28. 9. 17	メディカ出版看護セミナー	医療関係者 100 名	「高次脳機能障害とは」 種村 純
28. 9. 24	旭川荘療育アカデミー 総合課程	福祉施設職員、保育園職員、学校教員 22 人	「高次脳機能障害の特性と社会的支援」 後藤祐之
28. 9. 30	新見地域医療ネットワーク会議	保健師、精神保健医療関係者 20 名	「高次脳機能障害の症状と支援について」 後藤祐之
28. 10. 8	「コスモスの会」研修講師	失語症当事者・家族 18 人	「失語症の人達への社会的支援」 旭川荘 後藤祐之
28. 11. 19	第 6 回専門職のための KAWASAKI 認知症セミナー	医療福祉介護関係者、行政職員 85 名	「安全運転と認知機能」 用稲丈人
28. 11. 27	メディカ出版看護セミナー	医療関係者 100 名	「高次脳機能障害とは」 種村 純
28. 12. 5	吉備職業リハビリテーションセンター	就労関係者 10 名	「就労支援に際しての説明および個別相談」 平岡 崇
28. 12. 16	旭川荘竜ノ口寮職員研修会	福祉関係者 15 名	「失語症の症状と対応」 八木真美
28. 12. 18	岡山リハビリテーション講習会	一般、支援者 145 名	「日本における高次脳機能障害者支援のこれから」 中島八十一 氏 「海外における高次脳機能障害者支援」 種村留美 氏
29. 1. 29	専門作業療法士取得研修高次脳機能障害基礎Ⅳ	作業療法士	「言語機能およびその障害と一般的な作業療法介入」 種村 純
29. 2. 1	高次脳機能障害支援研修	医療、福祉、行政関係者	高次脳機能障害の症状や支援について 種村 純、後藤祐之、滝川敬三 八木真美
29. 3. 4	旭川荘療育アカデミー高次脳機能障害特別講座	医療、福祉関係職員、当事者、家族	「高次脳機能障害者の日常生活を支援するために」 工房「羅針盤」施設長 山河正裕
29. 3. 8	倉敷市保健医療センター居宅事業所職員研修	医療福祉関係者	「高次脳機能障害の症状と支援について」 後藤祐之、八木真美

39.3.9	川崎医療福祉研究報告会	医療関係者	「神経心理学的検査と運転能力評価ソフトを用いた脳損傷者の自動車運転能力の評価」 平岡 崇、用稲丈人
--------	-------------	-------	--

⑥その他協力

- ・職業訓練実践マニュアル（高次脳機能障害者編Ⅰ）作製検討委員会委員

平岡崇、八木真美

2 今後の活動

- ・拠点機関は地域の協力機関や家族会との連携を行い、地域での支援を支える役割を務める。
- ・普及啓発活動の継続、パンフレット第3版の配布
- ・講習会や研修会の開催

3. 福祉ワーキンググループ →ひらた旭川荘 P9 参照

4. 小児ワーキンググループ

1 委員

岡田百合（倉敷健康福祉プラザ 言語聴覚士）

初鳥日美（岡山県精神科医療センター 作業療法士）

後藤圭乃（重井医学研究所附属病院 言語聴覚士）

小坂美鶴（川崎医療福祉大学 言語聴覚士）

赤池洋人（川崎医大附属病院小児科医師）

後藤祐之（ひらた旭川荘）

戸田逸美（岡山赤十字病院 言語聴覚士）

宮川知子（津山中央病院 言語聴覚士）

太田有美（津山中央病院 作業療法士）

山本 新（さとう記念病院 言語聴覚士）

吉村 学、花岡 彩（川崎医大附属病院 作業療法士）

宮崎彰子、川崎美香、山口晴加、八木真美（川崎医大附属病院 言語聴覚士）

2 活動内容

(1) 入院からの経過を追えるフォーマットの作成：継続中

(2) 約10年間の小児の高次脳機能障害児のデータ収集：継続中

(3) 症例検討会：医療ワーキンググループで発表

(4) 神経心理学的検査の検討：

①小児で使用する神経心理学的検査は少ない。定型発達児に神経心理学的検査を実施したものが公表されており、そのデータのとりまとめを実施している。

②小児の実行機能：倫理委員会申請中

- (5) 個別ケース支援：復学前の支援として家族・学校側に情報提供をした。
- (6) 教育機関との連携：個別ケースでは連携を図れているが、小児ワーキンググループとして連携はできていない。

3 今後の活動予定

上記を継続する。

個別ケース支援では復学に向けた支援に加え、支援体制の流れをワーキングメンバー内で検討する。

5. 精神科ワーキンググループ

1. 活動報告

個別ケースにおける高次脳外来と精神科医療機関、心療科との連携

2. 次年度の方針

個別支援を継続するとともに支援症例データの蓄積。特にワーキンググループの活動とせず、高次脳外来の中で行っていく。

6. 自動車運転ワーキンググループ

⑥自動車運転ワーキンググループ活動報告

兼ねてより継続しておりました研究活動の一部について、下記のごとくご報告させていただきます。

第 20 回医療福祉研究報告会（2017.3.9 於川崎医療福祉大学） 抄録

【演題名】

神経心理学的検査と運転能力評価ソフトを用いた高次脳機能障害者の自動車運転能力の評価

平岡崇 1,2) 用稲丈人 3) 種村純 1) 井上桂子 1) 黒住千春 1)

1) 川崎医療福祉大学医療技術学部 2) 川崎医科大学リハビリテーション医学教室

3) 川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター

（目的）近年、認知機能の低下したドライバーによる危険運転が社会問題となっている。しかし、認知的側面での運転の可否の判断に関しては未だに明確な基準は示されていない。そこで、神経心理学的検査とドライブシミュレーターを用いて、事故に関係する要因について検討した。

（対象と方法）本研究は川崎医科大学倫理審査委員会の審査を得てから実施した。（承認番号 2465）対象は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 28 年 5 月 31 日までに、当科において神経心理学的検査（TMT-A/TMT-B/RCPM/MMSE/FAB）と警視庁方式運転適性検査（以下 CRT）ならびにセーフティナビ®（本田技研工業製、以下 SN）を用いて運転の可否に関する評価を行った高次脳機能障害患者 95 名（男性 78 名女性 17 名/平均年齢 58±15 歳；22-89 歳）を対象とした。解析の方法は以下の通りである。研究 1：SN 総合運転学習でのヒヤリハット+事故の回数と神経心理学的検査の相関 / 研究 2：事故回数を目的変数とした重回帰分析 / 研究 3：事故回数と CRT 総合得点/SN 総合得点の相関 / 研究 4：ヒヤリハット・事故の多寡による神経心理学的検査の比較 / 研究 5：事故予測因

子の検討（神経心理学的検査のカットオフ値に関する検討）。

（結果）事故の回数と上記すべての神経心理学的検査の指標との間には優位な相関が見られた。（Spearman's ρ の絶対値：0.30~0.43）ステップワイズ法による因子選択を用いた重回帰分析の結果、事故の回数予測因子としては RCPM（年齢調整自由度調整 $R^2=0.22$, $P=0.0019$ ）が選択された。CRT/SN の総合得点は事故の発生とは有意な関係が見られなかった。SN 総合運転学習において、ヒヤリハットが見られない群においては、他の群に比し TMT-A/TMT-B や FAB が有意差をもって低下していた。また中等度～軽度（AUC0.67~0.74）の精度をもって、事故を起こす/起こさないの神経心理学的検査カットオフ値の設定が可能であった。

（考察）安全な運転には、手足の運動機能と同等以上に、認知機能や精神的安定の維持が重要である。今回我々は認知機能に焦点を当て研究を行った。結果、安全運転には、前頭葉機能を中心に幅広い認知機能が一定以上維持されていることが重要であることが示された。なかでも事故の予測因子としては、情報処理速度と前頭葉機能が重要であることが示された。しかし、神経心理学的検査からは事故の多寡に関して約 20%しか説明はできず、改めて安全運転には運動機能・認知機能・精神的安定などのすべてがバランスよく満たされていることが重要であることが間接的に示されたものとする。

6 関係機関における支援

（1）岡山障害者職業センター

岡山障害者職業センターは、障害者の就職の促進と職場定着を図るため、障害者・事業主等の多様なニーズに対応した職業リハビリテーションサービスを提供しています。

平成 28 年度は 640 人の利用者がおり、うち高次脳機能障害は 7 人（新規 3 人、再扱 4 人）でした。新規 3 人を男女別に見ると、男性 2 人、女性 1 人で、年齢別に見ると 20 歳代、30 歳代、40 歳代が各 1 人でした。新規 3 人のうち、新たな職場への就職・定着を目指している方が 2 人、休職中の職場への復職を目指している方が 1 人でした。

支援にあたっては、紹介元の医療機関や福祉機関と連携して「職業評価」を行い、その方の状況を把握したうえで、当センター内に一定の期間通っていただく「職業準備支援」、ジョブコーチがそれぞれの方の職場に出向く「ジョブコーチ支援」等により支援を行っています。その方の状況によっては、当機構が運営する「国立吉備高原職業リハビリテーションセンター」の職業訓練（在職者を対象とした訓練を含む）を利用して就職・復職を目指すこともあります。

（2）社会医療法人 水和会 倉敷リハビリテーション病院

【当院での高次脳機能障害患者の支援者数】入院 94 名 外来 7 名

【支援内容】入院及び外来リハビリテーションにおける評価、治療

自動車運転再開支援

復職相談

情報提供

当事業においては医療 WG、自動車運転 WG に参加

【その他の活動】院内に高次脳機能障害ワーキンググループを設け、平成 26 年度から活動している。メンバーは Dr.、Ns、OT、ST、PT、MSW。活動内容はミーティング開催、症例検討、勉強会の開催など

（３）医療法人創和会 しげい病院

【支援者数】

高次脳機能訓練および評価患者

入院 41 名 外来 5 名

自動車運転支援

入院 9 名 外来 5 名

【支援の内容】

- ・高次脳機能評価 ・高次脳機能訓練 ・環境調整 ・自動車運転支援
- ・訪問リハビリテーション

【その他の活動】

- ・医療 WG、自動車運転 WG への参加
- ・高次脳グループでの定期的な勉強会開催

（４）医療法人 さとう記念病院

【支援者数】

入院 年間 20 名程度(小児中学生 1 名)

外来 年間 5 名程度

【支援内容】

入院、外来での高次脳機能訓練・評価が中心。必要に応じて在宅生活における環境調整や復職に向けての情報提供、自動車運転再開支援などを行っている。
また、今年度は小児(中学生 1 名)の入院患者に対して復学支援なども行っている。

（５）医療法人 思誠会 渡辺病院

【支援者数】

入院：13 人 外来：9 人

【支援内容】

入院・外来リハビリテーションによる個別訓練

環境調整

外出リハビリテーション

院内勉強会

昨年度と同様に、外来リハビリテーションでは言語聴覚療法を目的とした患者様を中心に支援しています。入院リハビリテーションでは、年齢層が高く脳血管疾患により高次脳機能障害を呈すも認知機能の低下で精査困難な方が多くおられます。退院先が自宅の方は自宅外出時に同行し、自宅環境で評価・訓練を実施しています。退院前には家族・本人を中心に、必要に応じてケアマネージャーや利用サービス先の担当者なども交え、情報交換を行っています。

【今後の活動】

院内での勉強会なども行いながら、高次脳機能障害の理解を深めていきたいと考えています。

（６）瀬戸内市民病院

平成 28 年 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日における当院での高次脳機能障害患者数は、男性 7 名、女性 11 名、計 18 名という結果でした（＊前年度は 13 名、回復期リハビリ病棟・地域包括病棟の開設に伴って他院から転院されるケースが増えています。）。障害内訳は失語症のみの方：0 名、失語症とその他高次脳機能障害を合併している方：12 名、高次脳機能障害のみの方：6 名でした。また転帰先として、在宅復帰：10 名、施設入所：4 名、療養病院転院：3 名、死亡退院 1 名となっています。

当院に入院される方の平均年齢は高く、この 1 年間で就労・就学支援はありませんでした。しかし、在宅に戻られるケースでも介護保険下でのサービス利用を開始される方が多いため、必要に応じて情報提供等をおこなっていました。

（７）コープリハビリテーション病院

平成 28 年 1 月～6 月

性別	疾患名	高次脳機能障害	転帰	退院時 FIM	退院後フォロー
男性	外傷性くも膜下出血	注意障害	自宅	59	訪問リハ利用
男性	脳挫傷	注意障害 失語	介護付き有料老人ホーム	38	
女性	外傷性くも膜下出血	失語	自宅	118	
男性	脳梗塞	注意障害 左 USN	自宅	83	通所リハ利用
男性	脳出血	注意障害 左 USN 失語	自宅	51	老健入所
女性	脳梗塞	注意障害	グループホーム	92	
男性	脳梗塞	注意障害 左 USN 病態失認	自宅	80	通所介護利用
男性	脳梗塞	注意障害	自宅	113	通所リハ・訪問リハ利用
男性	外傷性くも膜下出血	注意障害 病態失認	自宅	67	
男性	脳梗塞	注意障害	自宅	111	復職
男性	脳出血	注意障害 左 USN	自宅	96	短時間通所リハ利用

平成 28 年 6 月～12 月

男性	半側空間無視 注意障害	特養	
女性	半側空間無視 注意障害 失語	老健	
男性	記憶障害 注意障害 遂行機能障害 病識低	自宅	

	下		
男性	注意障害 遂行機能障害 病識低下	自宅	復職
男性	半側空間無視 注意障害 病識低下	自宅	短時間通所 リハ 訪問 リハ
男性	注意障害	介護付き有料老人ホーム	
男性	社会的行動障害	自宅	通所介護
女性	半側空間無視 失語 失行	特養	
女性	記憶障害 注意障害 病識低下	自宅	通所リハ
女性	注意障害	老健	
女性	注意障害	自宅	通所リハ
男性	半側空間無視 注意障害 病識低下	自宅	通所リハ
女性	注意障害	自宅	短時間通所 リハ
男性	注意障害 遂行機能障害 病識低下 社会的 行動障害	自宅	
女性	記憶障害 遂行機能障害	自宅	
男性	注意障害 社会的行動障害	療養型病棟	
女性	注意障害	老健	
男性	半側空間無視	小規模多機能	
男性	遷延性意識障害	療養型病棟	
女性	注意障害 記憶障害	自宅	
女性	遷延性意識障害	療養型病棟	
女性	注意障害 記憶障害 病識低下	自宅	
男性	注意障害	自宅	訪問リハ

(8) NP0 法人 おかやま脳外傷友の会・モモ

□ モモの会

【日本脳外傷友の会第16回全国大会2016 高知報告】

◆ 第1日目：平成28年10月7日（金） 13時から17時

- 運営委員会（正会員・準会員団体代表出席）、支援コーディネーター研修会、子供を含む高次脳家族部会部会の3グループに分かれ会議
- 交流会：18時から20時まで307名の当事者及び家族が全国から集まりました。

◆ 第2日目：平成28年10月8日（土） 9時から17時

- 全国大会：高知市文化プラザかるぽーと
- 約458名の方々が集まり基調講演、シンポジウム

【運営委員会】

高次脳機能障がい支援法の立法化について

- H17に発達障がい支援法を議員立法で法制化した超党派議連の副会長の山本公明党議員が出席され、今後、高次脳機能障がい支援の立法化について強力にサポートされることを表明されました。

- J T B I A も山本議員とタイアップして強力に推進すること確認しました。
- 次回全国大会予定

‘17／10／20（金）、岐阜グランドホテルで実施。

【全国大会】

- 大会プログラムの内容は、開会記念式典の後、国土交通省の黒岩勉様、文部科学省の萩庭圭子様、国立職業リハビリテーションセンターの野口勝則様より、基調講演として、高次脳機能障害に対する国の支援の現状についてお話し頂きました。
- 民間の立場よりの基調講演として、滋賀県でご活躍されている社会福祉法人グロー（GLOW）の北岡賢剛様より、今までの豊富な経験からの問題点、「行動や感情ががうまくコントロールできない社会的行動障がい深刻な者のケース程、福祉のサービスが行き届いていない現状とその問題」を訴えられました。

日本脳外傷友の会第16回全国大会 in 高知アピール

- 今年、リオデジャネイロで開催されたオリンピック、パラリンピックでは日本選手が大活躍をし、私たちに笑顔と元気をくれました。社会の一員として生活している高次脳機能障害者の人たちもリオオリンピック、パラリンピックで活躍された選手の皆さんから目標に向かう力と姿勢をもらったことでしょう。
- しかし、4月に発生した熊本地震、各地を襲う大雨による河川の氾濫や土砂災害など、障害者にとって災害に遭った時の支援の在り方など不安材料があるのも確かです。また、7月に起きた神奈川県相模原市の津久井やまゆり園の凄惨な事件、「障害者なんかいなくなればいい」このように理不尽な考えを持つ人がいる、そのような社会であっていいのでしょうか。
- 今大会のテーマでもある「見えない障害？」「見てない障害？」～もっかい考え直さんかえ～を原点とし、以下のことをアピールします。
- 今年4月に「障害者差別解消法」が施行されたとは言え、今日においても障害者に対する偏見、差別は社会の中に厳然として残っており、とりわけ「見えにくい障害」と言われる高次脳機能障害をもつ人々への誤解、偏見は存在しています。私たちは、原点に立ち返り、社会への啓発活動を積極的に継続していきます。
- 高次脳機能障害者（児）の地域生活を支えるための障害特性に対応できる知識及び技術を持つ人材育成、医療と福祉の連携、友の会と専門機関、教育機関との連携など多職種との連携をさらに強めていきます。
- 平成30年度からの障害者基本法に基づく障害者福祉計画、障害者総合支援法に基づく障害福祉計画において高次脳機能障害者支援が明確に位置付けられるよう働きかけるとともに、「専門的・広域的な相談支援を担う高次脳機能障害支援センター」の恒久的設置が保障されるよう制度・政策の整備を要求していきます。
- 高次脳機能障害者（児）が自身の力を信じ、本人活動、ピア・サポート、当事者ネットワークなどの促進を図り、一人ひとりの生活力を向上していくことを援助していきます。

- 「人の世に、道は一つと言うことはない。道は百も千も万もある」坂本龍馬の言葉のように高次脳機能障害者への支援は一つではありません。
- 私たちは各地の当事者団体、当事者、家族が望む施策の実現を目指し、手を携え一丸となって活動を展開していきます。

平成 28 年 10 月 8 日

日本脳外傷友の会第 16 回全国大会 in 高知参加者一同

実績			
日付	事業名	場所	参加者等
7 月	モモの会・会報発行	—	理事
8 月 10 日	高次脳機能障害支援体制連携調整委員会	川崎医大附病院	会長
8 月 20 日	みのり園夏祭りにてバザー開催 岡山西 LC の「第 7 回みのり園夏ふれあい祭り」	賀陽町ロマン高原 かよう総合会館広場	モモ&かたつ むりと合同
8 月 28 日	おかやま言語まつり参加	川崎医大附病院	会長
10 月 7 日	日本脳外傷友の会 第 16 回全国大会 2016 in 高知	高知	会員 希望者
10 月 8 日	JTBIA 運営委員会、交流会、全国大会に 1 泊 2 日で参加 (岡山西ライオンズクラブ様よりご寄附)		
11 月 13 日	「工房かたつむり」地域ふれあいバザー	工房かたつむり	モモ&かたつ むりと合同
12 月 28 日	岡山リハビリテーション講習会 県内家族会の現状発表	川崎医療福祉大学	会長
12 月	モモの会・会報発行	—	理事
1 月 25 日	川崎医療福祉大学生対象に高次脳障害者の事例講演	川崎医療福祉大学	—
2 月 1 日	平成 27 年度岡山県高次脳機能障害支援研修会	—	会長
2 月 11 日	モモの会 会員親睦会開催	—	会員
3 月 4 日	高次脳機能障害地域支援ネットワーク中国ブロック協議会及び研修会	—	会長
3 月	高次脳機能障害支援体制連携調整委員会	川崎医大附病院	会長
1 回／毎月	モモの会理事会	工房かたつむり	理事

(9) NPO 法人 工房かたつむり

月 日	行 事	場 所 ・ そ の 他
4 / 7	お花見	雨天の為、中止
4 / 28	ワックスがけ&誕生会	大掃除を兼ねる：工房かたつむり
4 月中旬	たのめーるカタログ	発送作業：工房かたつむり

5/22	28 年度総会 36 回理事会	工房かたつむり
6/13	川崎医療福祉大学で講演	参加：田村・高尾親子
7/5	七夕にむけて	工房かたつむり：習字の時間に短冊を書いて笹に飾る
7/29~31	創志学園バザー	池田動物園にて night
7/30	あじさいの会・第 37 回理事会	工房かたつむり
8/12	大掃除	工房かたつむり
	夏休み	8/13~8/16
8/20	みのり園夏祭りバザー	ロマン高原かよう：準備はかたつむりにて
8/22~9/16	福祉施設体験実習	吉備国際大学学生が工房かたつむりで実習：各 2 名 × 4 週
8/28	岡山言語まつり講演会	川崎医療福祉大学にて
10/7~8	職員研修	日本脳外傷友の会全国大会 in 高知：モモに参加
11/13	地域ふれあいバザー：12回	工房かたつむり：雨天決行
11/26	第 38 回理事会	工房かたつむり
11/27	1 日研修旅行・誕生会	淡路島：吹き戻し体験他
11/30	音楽発表 in 福祉プラザ	障がい者週間のイベントに参加
12/5	施設訪問：音楽発表	児島の田嶋医院にて
12/11	リハビリテーション講習会	川崎医療福祉大学にて：職員研修（4 名）
12/15	餅つき大会・クリスマス会・誕生会	午前：餅つき大会（おろし餅・餡餅・雑煮） 午後：クリスマス会（ビンゴでプレゼント）・誕生会
12/19・20	元気の輪バザー参加	職員・ボランティア
12/23~25	創志学園バザー	池田動物園にて
12/27	大掃除・ワックスがけ	工房かたつむり
	冬休み	12/28~1/3
1/4	初出勤・初詣	八幡神社・水門神社へ初詣・ぜんざいで新年会
1/25	川崎医療福祉大学にて発表	12:45~音楽療法実演ミュージックベル・歌・他（集合 12 時）
2/14	バレンタインデー・誕生会	誕生日を兼ね、所員・先生方・ボランティアにチョコをプレゼント
2/23	社会見学・誕生会	和気ヤクルト工場見学・長船刀剣博物館他
3/12	第 39 回理事会	工房かたつむり

その他活動	毎 週 : 絵画・音楽療法（内藤先生指導）・卓球 認知療法のグループリハビリ（種村先生指導） 月 2 回 : 習字・絵画・オカリナ&ピアノ（各指導者来所） 月 1 回 : 誕生会&大掃除 ワックスがけ年 2 回 避難訓練：毎月 1 日に FM ラジオに併せて訓練する 日常作業：工芸（指編みを主に）・陶芸・農作業・名刺印刷・他 年 2 回たのめーるカタログ発送作業
-------	---

☆それぞれの作業・リハビリ活動を通じて、団体活動による、場に応じた行動・発言等を考えて 少しでもトラブルを回避できればと願っています。仲間意識も育っています。

（１０）草木舎

・講演会の開催

第 8 回 障がいがあっても心は生きている ー高次脳機能障害とはー

【日時】平成 28 年 10 月 23 日(日) 13 : 15 ～16 : 15

【場所】倉敷市芸文館・会議室ほか

【内容】

1 講演 「高次脳機能障がい者の生活を支援する」

神戸大学大学院保健学研究科 教授 種村留美 先生

2 座談会

3 ミニみにコンサート（当事者もチェロで参加）

（１１）まにわシードの会

開催状況：月 1 回（第 3 or 4，火曜日） 計 1 1 回開催済み

時間：1 4 : 0 0 ～1 6 : 0 0

内容：当事者グループ、家族グループの 2 グループに分かれ同時開催

参加者：

当事者グループ 〈参加者〉延べ 80 人 （計 11 回）平均：7.2 人

家族グループ 〈参加者〉延べ 103 人 （ 〃 ）平均：9.4 人

※今年度は、当事者・家族と支援者を分けて人数を把握していなかったため大きく参加者として集計しています。

《当事者グループ》

活動内容：自己紹介、机上創作活動、福笑い、パズル、

イベント参加物品準備等、体操等身体活動を取り入れたゲーム

支援スタッフ：作業療法士・理学療法士・言語聴覚士、・社会福祉士・

介護福祉士・介護支援専門員・精神保健福祉士・

言語聴覚士(コーディネーター)・各施設実習生・

他地域医療スタッフ、介護保険関係スタッフ

《家族グループ》

活動内容：支援スタッフと家族との合同ミーディング，
ストレスケア，現状報告，情報提供，情報共有 等
支援スタッフ：社会福祉士・介護支援専門員・
言語聴覚士・精神保健福祉士・臨床心理士 等

☆今年度の内容☆

- ・シードの会への市・保健所の保健師の参加はありませんでした。
情報発信として、シードの会スタッフから市の保健師に開催日は都度連絡しています。
- ・家族会の負担軽減の為、毎年10月に開催していた研修会の開催を休止しています。
- ・新規相談もありました。ご家族のみの参加もあり、様々な形での対応をしていけるよう準備しています。

☆その他活動

- ・家族開催のおしゃべり会継続中
月に1回（毎月第2週目火曜日） AM10：00～PM3：00
場所：風曜日
- ・地域イベントへの参加
1/22 食育健康まつり （活動紹介・パネル展示 過去作成展示）
スタッフ：2名、家族会：2名 参加
2/11 福祉フォーラム （活動紹介・パネル展示）
豪雪の為、開催中止

【今後の課題】

- ・新規メンバーの発掘（継続）
→ シードの会の案内用パンフレットはイベント時に配布しています。市にも協力してもらい、各振興局等にも配布しています。同地域医療機関間での周知は進んでいる様だが、福祉関係者、介護保険分野へのアプローチは必要性を感じています。
- ・行政との連携
→ 市の直接の介入は少なくなっています。活動の報告は福祉関係部署に連絡する程度になっています。地域イベントの参加時に活動状況の発信をし、行政スタッフにも再度理解を求めていきました。
- ・会参加困難者への対応
→ 交通手段等での参加困難者について、旭川荘真庭地域センターの相談支援対応を依頼しました。対象者施設への訪問等を行っていただきました。同対象者に対して、保健師へ繋ぐ介入を行いました。頻回の電話相談への対応も事務局として継続して

います。地元 ST にも高次脳機能面の対応を依頼しています。

(12) つるの会

1. 定例会は、奇数月は第3日曜日、偶数月は第4火曜日を原則に実施した。
2. 津山市スポーツ祭（10/9）に行われるフリーマーケットに出店し、高次脳機能障害や家族会に関するチラシを配布して啓発活動をした。
3. 社会貢献活動の一環としてイオンが実施している「黄色いレシートキャンペーン運動」に参加している。レシートが黄色になる11日には、店内活動に参加している。
4. イオン津山店内にパネル展示（11月）を1週間実施した。



H28. 10. 9(日)

フリーマーケットの様子

↓ イオンカード贈呈式
(4/10)



5. 1年に1度の家族会懇親会（11/13）



6. 各種研修会に参加

- ① 美作地域包括支援センターの見学会（10／26、2名参加）
しらうめ会の事業に合流。
- ② 「高次脳機能障害者の支援とこれから～現状と課題～」（12／18、1名参加）
- ③ 「平成28年度高次脳機能障害者支援研修会」（2／1、1名参加）
- ④ 精神障害者家族研修会・交流会（2／23、1名参加）
- ⑤ 脊椎脊髄リハビリテーション研修会（2／25、2名参加）

7. その他

- *鵜川克己理事長（岡山県精神障害者家族会連合会）の旭日双光章受章祝賀会に参加
(8／27、1名参加)

7 平成 29 年度 岡山県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業計画書

1 基本方針

平成 29 年度においても厚生労働省は国立障害者リハビリテーションセンターを全国拠点に高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業を継続することから、岡山県においても引き続き個別の診断・評価・支援を実施するとともに研修等の普及啓発活動を行う。また中国ブロック会議の当番県であることから同会議および研修会を開催する。

2 実施体制

(1) 拠点機関体制

従来の支援拠点機関体制を維持し、診断・評価から社会的支援までの一貫した支援体制を継続する。

(2) 支援コーディネーターの配置

川崎医科大学付属病院及び社会福祉法人旭川荘において、それぞれ支援コーディネーターを 1 名配置する。

(3) ワーキンググループ

各種のテーマに対応したワーキンググループを設置する。

3 事業内容

(1) 個別の診断・評価等及び相談支援（拠点機関の活動）

①川崎医科大学付属病院における診断・評価・リハビリテーションを実施する。

②旭川荘においては医療を終えた後の社会的支援を実施する。

(2) ワーキンググループ（WG）の活動

①医療 WG

症例検討会を開催し、関係機関メンバーが認知リハビリテーション及び社会的行動障害などに対する評価・治療を検討する。

②地域連携 WG

家族会等への支援の実施、講習会や研修会を開催する。平成 28 年度に引き続き保健所や市町村障害者自立支援協議会の部会において普及啓発の機会を確保するよう努力する。

③福祉 WG

引き続き医療を終えた後の社会的支援（福祉サービスの利用支援や職場復帰相談）を行うこととし、必要に応じ県北や隣接県の医療機関等への訪問相談を行う。ひらた旭川荘では失語症者の日中活動の場を提供する。

④小児 WG

今年度活動内容を継続するとともに、個別ケース支援では復学に向けた支援に加え、支援体制の流れをワーキングメンバー内で検討する。

⑤自動車運転 WG

継続課題である岡山県内の自動車運転に関する実態調査を予定。川崎医科大学付属病院でシミュレーターや運転適性検査を受けられた方々を対象とした、適性検査成績と神経心理学的検

査成績との関連性についての後方視的研究については、一定の成果を得たため報告する機会を設けたい。研究については、今後前向き研究へ移行してゆく予定。

(4) 中国ブロック協議会及び研修会

平成 29 年度は岡山県が中国ブロック協議会の当番県であることから、同会議および研修会を開催するとともに、全国連絡協議会における資料の取りまとめなどの事務局の役割を負う。

岡山県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 実施報告書（平成 28 年度）

発行	岡山県高次脳機能障害及びその関連障害に対する 支援普及事業 高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会
発行事務局	川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター 〒701-0192 岡山県倉敷市松島 577 TEL (086) 462-1111 (代) FAX (086) 462-7897